



謎の超笑力をもつ大魔王が、あなたに贈る不思議なムダ話

発行：トラベル・ミトラ・ジャパン (E-mail : daimao@travelmitra.jp)

ぼん子画

(570-0041) 大阪市北区天神橋 1-18-25 第3 マツイ・ビル 201 TEL : 06-6354-3011

お笑いエッセイのメール発信をご希望の方は、ご連絡下さい。(E-mail : daimao@travelmitra.jp)

「インド芸能の世界 with 人間国宝」⑥

とうとう最終日がきた。もう一つ大事な行事が残っている。夕刻に行われる領事館公邸での演奏会である。

それまで時間がある。

「皆さま方よ。残った時間を有効に使おう」と提言した。ホテルで休息するもよし。どこかに行くのもよし。また、マザーテレサの施設を訪問するもよし。さて、皆さま方よ。どうする。

大半が自由行動を希望したが、ホテル周辺には楽しむべきものがない。そこでマザーテレサの施設を訪問することになった。ところが一人だけ同意しなかった。

結局われら全員と同行することになったのだが、わが輩は思った。

(何か特別な信仰をもっているのか?)

そういえば、多宝山でも焼香をしなかった。ベルル僧院でも中に入らなかったようだ。何か堅固な信仰をもっているようなのでお勧めはしない。

マザーハウスの一階にはマザーの墓がある。二階でミサが行われる。マザーの定席に小さなマザーの坐像ある。まるでマザーが活着しているかのようだ。わが輩は、何ごとも強制しない。ところが読者諸氏よ。驚いたことが起きた。わが輩に近づいてきて彼女が言った。

「お祈りをする時間はあるでしょうか」

(えっ!)

彼女は信仰をもっていた。わが輩は驚き言った。

「もちろん、どうぞ。どうぞ」

彼女の告白によるとキリスト教の洗礼を受けているという。しかもカトリック信徒である。ご存知のようにマザーはカトリックの尼僧である。先年バチカンで「福者」に列せられた人である。

それなら「なぜ?」とわが輩は思ったが、これは謎だ。謎はナゾのままにしておこう。読者諸氏よ。

ホテルで帰り支度をして総領事公邸に向かうことになったが、わが輩は勘違いをしていた。領事館近くに併設されているものとばかり思い込んでいた。チェンナイの公邸は併設されていたような記憶があったからである。出発直前に別の場所だと分かった。

(セーフ!)

公邸には、他国の外交官、芸術家、政治家などの名士 30 人ほどが招待されていた。同じように人

間国宝の演奏と宗匠のお茶が振る舞われた。宗匠は冷静沈着の人だが、ついに感極まった。わが輩も感動した。最後の最後に震えるような感動がやってきたのである。

その感動が静まり、いざ会食となった。にぎり寿司やお刺身だ。日本酒も振る舞われたが、わが輩は口にしなかった。まだ緊張をとくわけにはいかない。

そのまま空港に向かったが、機上の人になって初めて睡魔が襲ってきた。バンコク経由で成田に着いたのは午後4時である。ここで解散。わが輩の緊張が一気にとけた。

読者諸氏よ。正直に告白しよう。出発までのんびりお茶を飲んでいたら、関空への便に乗遅れた。そんなに時間が経っているとは思わなかった。まだころはインド時間を彷徨っていたのである。大急ぎで東京駅に向かい新幹線で帰宅した。今度は逆に3時間が1時間ほどに感じた。

旅は、一時的に時間と空間から開放してくれる楽イベントだよ。だから、また旅にでようよ。読者諸氏よ。